Picture-Frustration Study に関する研究（1）

—予備実験的研究—

上田順一

Ⅰ 問題

Personality の診断に当つて，Rorschach, T・A・T，S・C・Tなどの所謂 Projective techniques が有効な役割を演ずることは，それらの取扱上の困難性にもかかわらず強調されてきており，すでに日本版もいつか公表されるに至つている。我々が取上げたのは，やはり Projective techniques の一種とみられる S, Rosezweig の創案にかかるPicture-Frustration Study（児童用）である。この研究はこのテストに関する極めて基礎的，予備的な研究をなしているに過ぎないが，第一段階として次のような問題の解決を直接の目的とした。

(1) 24枚に亘る各図版によつて反応語の上に特徴がみられるかどうか。

これは図版の構成及び図版の枚数と関係があると考えられるからである。

(2) 年令，性別によつて如何なる差異が認められるか。

これは発達の段階によつてどれだけの差異があるかを知り，又 Rosenzweig のいうG・C・R（Group Comformity Raiting）を日本向けに作製することになると考えられるからである。

Ⅱ 方法及び対象者

1. 材料：Rosenzweig 原版の中，英文の字句を日本文になおし，図版の構成及び枚数は彼自身のものを踏襲した。すでに日本人向けとして適当でないと思われるものも若干あつたのではあるが，根本的に検討して是非を明らかにしたいと思つたので，そのようにしたわけである。

テスト・ペーパーは次のように出来ている。

表紙 — 姓名，学校名，住居，検査日，生年月日，年令の記載欄，次いでやり方の説明がある。

やりかた：

「これから，おもしろいあそびをやつてもらいます。つぎに，いろいろのえがかいてあつて，そのなかで人がいろんなことをいつたり，したりしています。

よくそのえをみてください。ひとりの人はかならずなにかものをいつています。もうひとりの人はなにもいつていません。

その人のいつていることばをよくよんでください。そうして，もうひとりの人がどうこたえるかをかんがえて，あいているところへかいてください。

こたえは，一ばんはじめあたまにうかんだものをかいてください。

じようだんをかかずにできるだけはやくやつてください。」

児童用であるので，漢字を最少限にした。勿論，口頭をもつても説明した。

第1ページ — 第1図から第4図まで

Fig1. 女児が戸棚を開けて何かさがしている。女の大人が，「おにいさんにやつたからもうありませんよ」といつている。

Fig2. 男児がスケートに乗つて走つている，それを女児が追いかけ乍ら「わたしのスケートをかえしてちようだいよ」といつている。

Fig3. 教室の中，二人子供が机に座席している。一方が「おしえてあげないよ」といつている。

Fig4. 男児が坐つてトラツクをもつている。女の大人が，「すまないけど，わたしはあなたのトラツクをよくなおしませよ」といつている。

第2ページ — 第5図から第8図まで

Fig5. ウインドーにかざつてある人形を女児が指さしている。男の大人がそばで「わたしがお金持だつたら，あのにんぎようをかつてあげるんだがね」といつている。

Fig6. 2人の背の大きな少年が肩をくんで小さい男児に「おまえはちいさいからぼくらといつしよにあそべないよ」といつている。

Fig7. 家の前に立つている女の大人が，花を手にもつてやつてくる女児に「わるいこだね，わたしのうちのはなをとつたりして」といつている。

Fig8. 2人の女児が部屋の中に立つている，座敷には人形がこわれてちらがつている。一方が「あなたはわたしの一ばんだいじなにんぎようをこわしたね」といつている。

第3ページ — 第9図から第12図まで

Fig9. 2人の男児が坐つてゲームをしている。一方が「ぼくがかつたんだからぼくのものだよ」といつている。

Fig10. 女児がベツトにねている。女の大人が，「きのどくだけど，もうあなたをねかさなくつちやいけなかつたのよ」といつている。

Fig11. 部屋の中で男児が太鼓をたたいている。父らしい男が「しずかにしなさい，おかあさんがねようとしているんだよ」といつている。

Fig12. やせた男児に向つても一人の男子が「おまえはよわむしだ」といつている。

第4ページ — 第13図から16図まで

Fig13. 木の側で男児が大人の男につかまり，他の2人は向うへ逃げている。つかまえた男は「とうとうつかまえたぞ」といつている。

Fig14. 部屋の中に男児がいすに腰かけているのが見えるように書いてある。外のドアの入口に立つた大人の男が中に向つて「なにをしているんだ」といつている。

Fig15. 男児が階段から落ちて仰向けに倒れている。階段の上から大人の女が「けがはなかつたの」といつている。

じようだんをかかずにできるだけはやくやつてください。」

児童用であるので，漢字を最少限にした。勿論，口頭をもつても説明した。

第1ページ — 第1図から第4図まで

Fig1. 女児が戸棚を開けて何かさがしている。女の大人が，「おにいさんにやつたからもうありませんよ」といつている。

Fig2. 男児がスケートに乗つて走つている，それを女児が追いかけ乍ら「わたしのスケートをかえしてちようだいよ」といつている。

Fig3. 教室の中，二人子供が机に座席している。一方が「おしえてあげないよ」といつている。

Fig4. 男児が坐つてトラツクをもつている。女の大人が，「すまないけど，わたしはあなたのトラツクをよくなおしませよ」といつている。

第2ページ — 第5図から第8図まで

Fig5. ウインドーにかざつてある人形を女児が指さしている。男の大人がそばで「わたしがお金持だつたら，あのにんぎようをかつてあげるんだがね」といつている。

Fig6. 2人の背の大きな少年が肩をくんで小さい男児に「おまえはちいさいからぼくらといつしよにあそべないよ」といつている。

Fig7. 家の前に立つている女の大人が，花を手にもつてやつてくる女児に「わるいこだね，わたしのうちのはなをとつたりして」といつている。

Fig8. 2人の女児が部屋の中に立つている，座敷には人形がこわれてちらがつている。一方が「あなたはわたしの一ばんだいじなにんぎようをこわしたね」といつている。

第3ページ — 第9図から第12図まで

Fig9. 2人の男児が坐つてゲームをしている。一方が「ぼくがかつたんだからぼくのものだよ」といつている。

Fig10. 女児がベツトにねている。女の大人が，「きのどくだけど，もうあなたをねかさなくつちやいけなかつたのよ」といつている。

Fig11. 部屋の中で男児が太鼓をたたいている。父らしい男が「しずかにしなさい，おかあさんがねようとしているんだよ」といつている。

Fig12. やせた男児に向つても一人の男子が「おまえはよわむしだ」といつている。

第4ページ — 第13図から16図まで

Fig13. 木の側で男児が大人の男につかまり，他の2人は向うへ逃げている。つかまえた男は「とうとうつかまえたぞ」といつている。

Fig14. 部屋の中に男児がいすに腰かけているのが見えるように書いてある。外のドアの入口に立つた大人の男が中に向つて「なにをしているんだ」といつている。

Fig15. 男児が階段から落ちて仰向けに倒れている。階段の上から大人の女が「けがはなかつたの」といつている。

Fig16. 女児をつれた大人の女が別の女児に向つて「このこはあなたのボールをとつたりなんかしませんよ」といつている。

第5ページ — 第17図より第20図まで

Fig17 男児がベツドに横になつているのに向つて両親と思われる男女づれの中の男が「わたしたちはそとにでてくるからねなさい」といつている。

Fig18. 女児が男児に向つて「わたしおたんじようのおいわいにあなたをよぼうとはおもつてはいませんよ」といつている。

Fig19. 子供づれの母らしい人が，ベツトから降り立つている男児に「またねしようべんしたね，おとうとよりまだあかちやんだ」といつている。

Fig20. 玉を使つて2人の男児がゲームをしている。一方が「ごめん，まちがつてきみのたまをついたよ」といつている。

第6ページ — 第21から第24図まで

Fig21. 木につなをかけてブランコをしている女児がそれをみている女児に向つて「おひるからずつとブランコわたしがつかうのよ」といつている。

Fig22. 教室で授業があつている，男児が入口に立つている，女教師が「あなたは学校におくれたね」といつている。

Fig23. 女児がテーブルで食事している，エプロンがけの大人の女が，「おしるがつめたくつてわるいね」といつている。

Fig24. 図書館の中，係がやつてきた男児に向つて「てがきたない，ほんをかりるまえにあらいなさい」といつている。

以上6ページに亘る24枚の図版を通してみると，

(1) 名図版の大きさは縦約10cm，横約8cm，

(2) 各図版は輪劃画で顔などの表情は不明，

(3) 左側の人物は右側の人物をフラストレートさせると予想される言葉をいつている，

(4) 各図版の人物の組合せは必らずしも一定してはいない—これは反応語に重大な影響を与える要素になりうると思われるのだが，

(5) 児童の日常生活を出来るだけ代表させるよう意図している—これだけでよいかどうかは疑問の点がある。

2. 実施方法：Rosenzweig のそれに準拠した。

(1) 集団的（学級単位）に実施した。

(2) テスト時間は別に制限しなかつたが中学校生徒では約20分間，小学校低学年児童では約50分間を所要した。

(3) やり方の教示は前述の如く，テスト用紙に印刷してあるが，対象によつて説明をした。

(4) ここで取上げたデーターには加えなかつたが，幼稚園児，小学校低学年児童，その他精薄児童の如く，書記能力の不十分な対象に対しては，図版の大きを4倍大とし，画用紙に

図を書き個別的に口頭をもつて反応させる方法をとつたが，適当ではないかと考えている。

(5) テスターは筆者，それに補助者は学級担任教師になつてもらつた。

3. 対象：内訳は第1表の通りである。4. 5. 6才児についての資料は数が少ないので，この場合取り上げなかつた。

表1 対 象 者

年令 / 男女	7	8	9	10	11	12	13	14	計
男	21	28	24	31	34	27	43	17	225
女	26	23	17	26	20	19	30	23	184
計	47	51	41	57	54	46	73	40	409

4, 採点方法：Rosenzweig 自身の方法に従つた。即ち，彼によれば反応語の分類は二つの基準によつてなされる。

(1) 攻撃の方向から，

a. 外罰的 b. 内罰的 c. 無罰的

(2) 反応の型から

a. 障害優位型 b. 自己防禦型 c. 要求固執型

すべての個々の反応はこの二つの面の組合せと特殊型との計11種類によつて分類されることになつている。 （略号）

障害優位型外罰 …… E′

障害優位型内罰 …… I′

障害優位型無罰 …… M′

自己防禦型外罰 …… E

自己防禦型内罰 …… I

自己防禦型無罰 …… M

自己防禦型特殊外罰 …… $\underline{E}$

自己防禦型特殊内罰 …… $\underline{I}$

要求固執型外罰 …… *e*

要求固執型内罰 …… *i*

要求固執型無罰 …… *m*

このような分類の仕方は，彼のフラストレーション理論からきているのであるが，ここではそれに深くふれることはさけて上の11種類えの分類の観点を挙げるにとどめたい。

障害優位型：フラストレーションを起した障害を強く感じて承認する場合。

a. 外罰的 フラストレーションを起させた障害の存在が著しく強調されるような反応。

b. 内罰的 その障害がフラストレーションを起させるものではないと解釈され，或いは更に何らかの方法で役に立てうるものであるとされるような反応。

c. 無罰的　フラストレーションの事態の障害が殆んどその存在を無視できる位に極小になつているような反応。

自己防禦型：その場面の自分に対する脅威から防禦する場合。

a. 外罰的　批難や敵意などが環境内の人又はものに向けられる反応。

b. 内罰的　批難，叱責が自分自身に向けられる反応。

c. 無罰的　フラストレーションに対する批難は全部さけられる。事態は不可避であつたとされ，特にフラストレートさせる人物の責任も解除されるような反応。

d. 特殊外罰的　被験者が当面する罪に対して責任のあることを攻撃的に否定する如き反応。

e. 特殊内罰的　被験者が罪は承認するが止むを得ぬ事情があつたとして重大な過失を犯したことを否定するような反応。

要求固執型：課題の解決を目ざす場合。

a. 外罰的　フラストレーションの解決が誰が他人によつてなされることを期待しているような反応。

b. 内罰的　問題を解決するために，多くは罪の感じから，被験者自身が修正を提唱するが如き反応。

c. 無罰的　時間の経過に問題の解決を期待するような反応。忍耐と従順が特長である。

Ⅲ 結　　果

はじめに掲げた二つの問題を中心に集計してみた。被験者の数，年令的分布などの点にまだ不十分であるので概観するのにとどめた。先ず反応の分布を示すと次の通りである。

表2－1　Fig1 反応分類表

年令 / 分類	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'			1				1										2	
I'	1	2	1	3	1			1				2	2				5	8
M'	3	3	3	2	4	3	9	7	11	4	5	1	5	2	2	3	42	25
E, E	6	4	11	9	6	5	3	5	10	6	4	5	14	9	3	7	57	50
I, I			1			1		1				5		6		3	1	16
M			1														1	
e	9	8	9	5	10	3	15	9	9	8	14	5	16	11	5	5	87	54
i		4		1		3	3	1	1		6		3		5	1	18	10
m		1		1	2				2	3		1	3	2	2	4	9	12
無　答	2	4	1	2	1	2		2	1				1				6	10
計	21	26	28	23	24	17	21	36	34	21	29	19	44	30	17	23	228	185

表2－2　Fig2　反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'			1						1	1	1		1	1			4	2
I'									1						2		3	
M'			1	1			1			1		2	1	1	2		5	5
E, E	16	14	20	7	18	12	18	17	25	9	18	7	23	15	10	9	148	90
I, I			1		3			1	1	2			2		1		8	3
M																		
e	5	11	7	13	2	4	8	6	7	6	6	10	17	9	5	14	57	73
i				2		1		2		1	1			1			1	7
m					1	1	1		2				1				5	1
無答							2				1						3	
計	21	25	30	23	24	18	30	26	37	20	27	19	45	27	20	23	234	181

表2－3　Fig3　反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'											1						1	
I'		2				1		2		1		1	1	1	1		2	8
M'	5	5	7	2	4		2	3	4		4	2	12	5		1	38	18
E, E	5	6		5	2	5	5	3	9	8	5	6	5	10	4	5	35	48
I, I		1		1		1			1		1		1	2	1		4	5
M																		
e	9	9	18	12	14	6	21	17	16	9	14	6	19	8	9	11	120	78
i	1	4	1	1	1	5	2	1	4	4	2	3	6	5	2	6	19	29
m				2														2
無答					1				1		2						4	
計	20	27	26	23	22	18	30	26	35	22	29	18	44	31	17	23	223	188

表2－4　Fig4　反応分類表

類分＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	2	1												1			2	1
I'	1	2					1								1		3	2
M'	5	1	2			1	1	2			1	1			1		10	5
E, E	2	2	4	4	6	4	3	2	8	1	4	1	3	2	4	1	34	17
I, I	1	1	1	1		2	4	1	5	1	4		4	8			19	14
M								1	1	2			1	1			2	4
e	6	15	14	12	14	8	15	19	16	13	19	13	26	15	10	12	120	107
i	6	5	4	6	2	2	6	1	3	1	1	4	10	2	1	8	33	29
m						1										1		2
無答		1				1										1		3
計	23	28	25	23	22	19	30	26	33	18	28	19	44	29	17	23	223	184

表2－5　Fig 5　反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	1	3	1	2	2		2	1						1			6	7
I'	2	2		1	1		1						2	1	2		8	8
M'	1		1		1			1	1	2	1	3	2			4	7	11
E, E				1	4	3	1		1	2		1	3		2	5	11	7
I, I							1		1	1	1						3	1
M	3		2				1				3		4	5			13	6
e	10	18	18	16	13	11	23	22	25	13	18	12	24	16	7	1	138	115
i	3	4	3	2	1	3		1	3	2	2	1		2	2	7	14	17
m			3			3		1	2	1	3	3	4	6	4	2	16	17
無答													1			3	1	3
計	20	27	28	26	22	20	29	26	33	21	28	20	40	31	17	22	217	182

表2－6　Fig 6　反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	1			1													1	1
I'	1																1	
M'		3	2	1			1				1	1	4		2		10	5
E, E	7	8	6	8	3	6	5	1	5	6	9	3	14	12	3	5	52	49
I, I	3	2	3	2		1	6	4	8	3	1		2	3	2	3	25	18
M											1						1	
e	6	15	15	10	16	9	17	19	14	10	15	13	19	12	8	11	120	89
i	3		2	1	3	3	1	2	7		3	1	6	2		2	25	11
m												1				2		3
無答														1				1
計	21	28	28	23	22	19	30	26	34	19	30	19	45	30	15	23	235	177

表2－7　Fig 7　反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	2																2	
I'	2	3			1	1			1		1		1				6	4
M'	2	2		1	1					1		1		1	1		4	6
E, E	5	6	8	7	6		3	2	7	2	6		7	4	2	2	44	23
I, I	9	9	12	7	11	15	18	12	22	15	19	16	33	25	12	18	136	117
M																		
e	1	3	4	6		2	3	11	4	1	1	2	1		2	2	16	27
i		1	4		4		4			1	1		1				14	2
m																		
無答		2		1	1		4	2									5	5
計	21	26	28	22	24	18	32	27	34	20	28	19	43	30	17	22	227	184

表2－8　Fig8　反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'			1			1	1							1			2	2
I'																		
M'	1	2			1				1								3	2
E, E	6	11	13	6	9	8	10	6	11	6	4	4	16	6	10	3	79	50
I, I	12	5	13	13	10	5	16	20	22	10	21	14	25	19	7	20	126	105
M				2														2
e	1		1			1											2	1
i	2	5		1	1	4	2			2	4	2	4	2	1	2	14	18
m																		
無答					1		1										2	
計	22	23	28	22	22	19	30	26	34	18	29	20	45	28	18	25	228	180

表2－9　Fig9　反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'					1		1						1			1	3	1
I'	1	2				1											1	3
M'	2	1	5		2		1	2	2	1	2	2	2	2	1	1	17	9
E, E	6	17	10	11	11	7	10	12	19	11	12	5	14	17	9	8	91	88
I, I	1			1	1				1				1				4	1
M	4			1	1	1	6	1	2		4	2	5		2	3	24	8
e	8	5	8	8	5	4	8	10	3	3	6	8	17	9	6	6	61	53
i		3	4	2	1	3			4	3	3		2	2		4	14	17
m		2				1	3	1	3	1	2	1	3				11	6
無答			1							1							1	1
計	22	30	28	23	22	17	29	26	34	20	29	18	45	30	18	23	225	187

表2－10　Fig10　反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	4	3	2	2	1				2	2	5		4	1	1	2	19	10
I'	1	2	2	1					1		1				1	1	6	4
M'	4	6	2	2	3	5	5	4	4	1	3	2	6	6	1	2	28	28
E, E	4	7	12	10	9	6	11	14	12	10	9	6	16	13	11	10	84	76
I, I	3	1	1	3	2		3	1	5	2	4	2	4	4	1	1	23	14
M	1	1	1	2	4	1	4	1	2		2	5	10	5	1	5	25	20
e	1	2	2	1	1	4		4	4	3	1	1	2			2	11	17
i	2	4	4	1			3	1	4	1	2	2	3	1			18	10
m					1												1	
無答	1			1				1		1	2						3	3
計	21	26	26	23	21	16	26	26	32	20	29	18	45	30	16	23	219	182

表2—11　Fig11 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	6	2	5	3			2	1	3	2	4	1	4	1		4	24	14
I'	4	3	3		10	2	8	7	5	1	6	3	3	4	2	1	41	21
M'		1		1	1		1										2	2
E, E	9	13	9	9	8	8	9	6	15	9	8	7	20	12	7	3	85	67
I, I	2	3	7	5	2	2	6	9	7	6	9	5	11	8	7	10	54	48
M		2				1		1		1			2	3		2	2	10
e							1				1	1		1			2	2
i		4	3	4	1	3	2	2		1		2	3			3	9	19
m							1										1	
無答			1		1	1									1		3	1
計	21	28	28	22	23	17	30	26	30	20	28	19	43	29	17	23	223	184

表2—12　Fig12 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'			1			1		1			1	1				1	2	4
I'																		
M'	2		2	1		2	2	2	1	3	3	1	3	2		2	13	13
E, E	20	25	22	19	20	9	20	18	22	10	19	10	28	16	8	11	159	118
I, I				2		3	4	3	8	3	4	2	11	8	4	6	31	27
M					1						1	1		2			2	3
e		1	1	1			2	1	1			4	3	1	3	1	10	9
i		1	1		2	1	2		1	2		1		1	2	2	8	8
m										1								1
無答			1		2	2											3	2
計	22	72	28	23	25	18	30	25	33	19	28	20	45	30	17	23	228	185

表2—13　Fig13 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	1																1	
I'				1							1		1				2	1
M'	6		1	1		2	1	1		1	1						9	5
E, E	5	8	6	7	5	8	12	6	13	6	8	10	15	8	7	11	71	64
I, I	1	2	2	1	4		3	3	6	4	6	5	13	8	8	8	43	31
M		2	1	4	2	1	2	1	1		5		2	1		1	13	10
e	6	12	11	6	8	3	11	12	12	9	8	3	12	13	2	2	70	60
i	2	3	5	3	2	2		2	2			1	2			1	13	12
m																		
無答			1					1									1	1
計	21	27	27	23	21	16	29	26	34	20	29	19	45	30	17	23	222	183

表2—14　Fig14 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'																		
I'							2						2				4	
M'	19	24	24	21	14	14	22	20	25	16	26	16	37	27	16	21	183	159
E, E	2	2	1	3	7	1	1	2	4	1	2	2	2	2			19	13
I, I	1	1						1	1			1	1	1			3	4
M																		
e			2			1	5	2	4	2	1		3		1	2	16	7
i																		
m																		
無答			1														1	
計	22	27	28	24	21	16	30	25	34	19	29	19	45	30	17	23	226	183

表2—15　Fig15 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'		6	14	14	12	6	18	11	18	9	14	9	12	7	1	15	89	77
I'	1	3				9											1	3
M'	11	13	12	9	8	1	9	15	12	10	12	6	29	22	14	5	107	89
E, E	1		2		1		1		2		2		2	1			11	2
I, I																		
M	7				1												8	
e	2	3			1		1		1		2	3	1		1	2	9	8
i		1								1					1		1	2
m																		
無答			1														1	
計	22	26	29	23	23	16	29	26	33	20	30	18	44	30	17	22	227	181

表2—16　Fig16 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	2		2	6	1		1	3	2	2	1						9	11
I'	4																	
M'	14	2	2			1					1						7	3
E, E	1	22	21	16	19	13	20	19	26	13	24	14	40	17	13	17	177	131
I, I				1			2	1	2	1	1	2	2	9	2	5	10	19
M		1				1	1	1						1		1	1	5
e		2	2		2	1	5	2	4	2	1	3	2	3	2	1	18	14
i											1					1	1	1
m																		
無答																		
計	21	27	27	23	22	16	29	26	34	18	29	19	44	30	17	25	223	184

表2—17　Fig17 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	7	8	13	8	4	2	8	1	4	10	6	2	7	7	2	4	51	42
I'																		
M'	8	2	4	1	4	2	5	2	9	1	7	2	7	6		1	44	17
E, E	7	9	9	5	7	9	10	8	10		1	4	7	2	2	1	53	38
I, I								1	1	1							1	2
M		1				1					2	2		1			1	5
e		8	2	8	7	4	7	13	7	9	13	7	20	14	12	17	68	80
i									3								3	
m												1		1				2
無答												1						1
計	22	28	28	22	22	19	30	25	34	21	29	19	41	31	16	23	221	187

表2—18　Fig18 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	6		1				4	1	3		1	1				1	15	2
I'														1				1
M'	5	7	7	11	2	3	4	6	6	10	8	2	11	6	3	4	46	49
E, E	7	10	6	3	8	9	11	2	13	4	12	5	19	9	8	7	84	49
I, I				1								1		1				3
M											1				1		2	
e	3	10	11	8	10	6	11	16	11	4	6	10	14	12	5	8	71	74
i		1	1						1							3	2	4
m											1						1	
無答																		
計	21	28	26	23	20	18	30	25	34	18	29	19	44	29	17	23	221	182

表2—19　Fig19 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	2	1	3	1	3	1		2	1	1	1	2	1	1		1	11	10
I'	1	1	4		2												7	1
M'	2	4		4	1	1	3	4	1	1	2	1	2	1	1		12	16
E, E	6	7	15	11	8	3	14	9	15	7	16	3	16	9	3	4	93	53
I, I	7	8	5	4	6	11	12	9	14	10	8	9	21	15	12	13	85	79
M								1										1
e	1	2		2									1	1			2	5
i	2	1	1			1	1		2		1	1	3	3	1	3	11	9
m					1												1	
無答																		
計	21	24	28	22	21	17	30	25	33	19	28	16	44	30	17	21	222	174

表2—20　Fig20 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	1																1	
I'	4	2															4	2
M'	3	3	7	7		2	6	6	7	7	9	4	7	6	2	2	41	37
E, E	5	8	9	9	12	6	7	14	13	4	10	5	8	5	5	2	69	53
I, I	2	6	1	1	1	1	3				1		1	1			9	9
M	5	2	5	4	3	8	3	2	5	6	5	3	10	11	4	11	40	47
e	2	2	5	2	4	1	10	4	8	3	3	4	12	7	6	5	50	28
i																		
m													1				1	
無答											1						1	
計	22	23	27	23	20	18	29	26	33	20	29	16	39	30	17	20	216	176

表2—21　Fig21 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'		2	1			1								1		1	1	5
I'	1																1	
M'	1			1	1		1		1		1			2		1	5	4
E, E	6	8	13	7	5	5	11	10	11	8	12	7	18	12	5	7	81	64
I, I							1		1	1	1						3	1
M																		
e	13	15	13	14	13	9	16	16	19	11	13	11	21	15	10	12	118	103
i					2	1			1								3	1
m	1	1				2	1		1		2		3		2	1	10	4
無答																		
計	22	26	27	22	21	18	30	26	34	20	29	18	42	30	17	22	222	182

表2—22　Fig22 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	2		3	1						1	1		1				7	2
I'					1	3	7	3	2	1	4	2	2	3	1		17	12
M'	6	6	9	5	5	4	5	3	2	3	2	3	6		1	1	36	25
R, E	5	9	5	3	4	1		2	2	1	4	1	2				22	17
I, I	6	9	8	12	10	6	18	17	21	12	14	11	30	21	14	19	121	107
M			1														1	
e																		
i	2	2	1	1		3		1	5	1	3	1	3	6	1	3	15	18
m																		
無答	1																1	
計	22	26	27	22	20	17	30	26	32	19	28	18	44	30	17	23	220	181

表2—23　Fig23 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	4	2	4	1	4		2			2				1			14	6
I'	1				1		3										5	
M'	3	5	12	13	10	9	17	14	28	9	19	15	27	21	8	14	124	100
E, E	2	6	1	3				3	3	1			1	3	1		8	16
I, I		2			1	4		1			1		4	1	2	7	8	15
M	3	1	1	2			2		1	1			3		1		11	4
e	7	5	6	4	5	4	4	6	2	8	9	3	8	2	5		46	32
i		3	1											1			1	4
m						1							1	1			1	2
無答	1	2															1	2
計	21	26	25	23	21	18	28	24	34	21	29	18	44	30	17	21	219	181

表2—24　Fig24 反応分類表

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14		計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	10	12	14	12	7	6	13	11	12	7	8	7	7	4	3	5	74	64
I'			1														1	
M'	2	3		1			1						1	1		1	4	6
E, E	4	6	4	7	7	4	3	3	6	6	7	1	7	7	2	4	40	38
I, I	1	2	2	1		1	3	1	4	2	2	5	6	6	3	7	21	25
M																		
e	1	4	4	2	5	6	10	11	11	5	11	5	21	11	9	5	72	49
i	2								1								3	
m																		
無答	1				1												2	
計	21	27	25	23	20	17	30	26	34	20	28	18	42	29	17	22	217	182

備考：各図版によつて年令、性別の計の数値に差異のあるのは、判定不能（反応語の文意不明、書字乱雑のため）、及び同一個所の反応語が2つの分類にまたがつた為である。前者の場合は反応教は減り、後者の場合は増える結果をもたらす。又表中に「無答」とあるのは記入すべき個所が空白であつた場合を示している。

上の表2—1から表2—24に至る各図版毎の反応の分布をみてみると，図版によつては極めて少数の限られた分類結果になるもの，可成りの幅をもつもの，これは又年令的にみても差異を生じている。この間の事情を更に明らかにするために次のような表を作成した。（表3—1，表3—2，表3—3を参照）

1.　図版別にみた反応分類上の特徴

表3－1　図版別反応分類表（Fig1～Fig8）（%）

分類＼Fig	1		2		3		4		5		6		7		8	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	0.9	—	1.7	1.1	0.4	—	0.9	0.6	2.7	3.7	0.4	0.6	0.9	—	0.9	1.1
I'	2.0	4.3	1.2	—	0.9	4.3	1.3	1.2	3.7	4.4	0.4	—	2.6	2.1	—	—
M'	18.8	13.5	2.7	2.6	17.4	9.5	4.4	2.8	3.2	6.0	4.2	2.9	1.8	3.3	1.3	1.1
E, $\frac{E}{I}$	25.1	27.0	62.6	49.7	15.7	25.4	15.3	9.4	5.1	3.7	22.4	27.8	19.4	12.5	34.6	27.8
I, $\frac{I}{M}$	0.4	8.7	3.4	1.6	1.8	2.6	8.5	7.8	1.4	0.5	10.6	10.1	59.9	63.6	55.3	58.4
M	0.4	—	—	—	—	—	0.9	0.3	5.9	3.2	0.4	—	—	—	—	1.1
e	38.1	29.2	24.4	40.7	53.9	42.3	53.9	59.2	63.7	62.1	51.0	50.3	7.1	14.7	0.9	0.5
i	7.8	5.4	0.4	3.8	8.1	15.3	14.8	15.9	6.5	9.2	10.6	6.3	6.2	1.1	6.1	10.0
m	3.9	6.5	2.7	0.5	—	0.6	—	1.2	7.3	9.2	—	1.7	—	—	—	—
無答	2.6	5.4	1.2	—	1.8	—	—	1.7	0.5	—	—	0.6	2.2	2.7	0.9	—
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

表3－2　図版別反応分類表（Fig9～Fig16）（%）

分類＼Fig	9		10		11		12		13		14		15		16	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	1.2	0.5	8.7	5.4	10.7	7.6	0.9	2.7	0.4	—	—	—	39.1	42.6	4.0	6.0
I'	0.4	1.6	2.8	2.2	18.8	11.5	—	—	0.9	0.5	1.8	—	0.4	1.6	—	—
M'	7.4	4.8	12.8	15.8	0.8	1.0	5.7	7.0	4.0	2.8	81.0	86.9	47.5	49.2	3.1	1.2
E, $\frac{E}{I}$	40.4	47.0	38.4	41.8	38.1	36.5	69.8	62.8	32.0	35.1	8.4	7.2	4.8	1.1	79.5	71.3
I, $\frac{I}{M}$	1.6	0.5	10.6	7.6	24.2	26.2	13.5	13.6	19.3	17.0	1.3	2.2	—	—	4.5	10.4
M	10.5	4.3	11.4	10.9	0.8	5.4	0.9	1.6	5.8	5.5	—	—	3.5	—	0.4	2.8
e	27.0	28.4	5.0	9.3	0.8	1.0	4.4	4.8	31.4	32.0	7.1	3.7	3.9	4.4	8.1	7.7
i	6.2	9.1	8.3	5.4	4.0	10.3	3.5	4.0	5.8	6.6	—	—	0.4	1.1	0.4	0.6
m	4.9	3.2	0.5	—	0.5	—	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—
無答	0.4	0.5	1.5	1.6	1.3	0.5	1.3	1.0	0.4	0.5	0.4	—	0.4	—	—	—
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

表3－3　図版別反応分類表（Fig17～Fig24）（%）

分類＼Fig	17		18		19		20		21		22		23		24	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	23.1	22.5	6.7	1.1	5.0	5.8	0.5	—	0.4	2.7	3.1	1.1	6.5	3.3	34.1	35.2
I'	—	—	—	0.5	3.1	0.6	1.9	1.2	0.4	—	7.7	6.6	2.3	—	0.5	—
M'	20.0	9.0	20.8	26.9	5.4	9.2	18.9	21.0	2.2	2.2	16.6	13.8	56.7	55.3	1.8	3.3
E, $\frac{E}{I}$	24.0	20.2	38.0	26.9	40.9	30.4	31.9	30.1	36.5	35.2	10.0	9.4	3.6	8.8	18.4	21.0
I, $\frac{I}{M}$	0.4	1.0	—	1.7	38.3	45.4	4.2	5.1	1.4	0.5	55.0	59.2	3.6	8.3	9.7	13.6
M	0.4	2.6	0.9	—	—	0.6	18.5	26.7	—	—	0.4	—	5.1	2.2	—	—
e	30.8	42.7	32.2	40.7	0.9	2.9	23.1	15.9	53.2	56.7	—	—	21.0	17.7	33.2	26.9
i	1.3	—	0.9	2.2	5.0	5.1	—	—	1.4	0.5	6.8	9.9	0.4	2.2	1.4	—
m	—	1.0	0.5	—	0.4	—	0.5	—	4.5	2.2	0.4	—	0.4	1.1	0.9	—
無答	—	0.3	—	—	—	—	0.5	—	—	—	—	—	0.4	1.1	—	—
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

表4　「反応の型」からの分類表　(%)

Fig / 反応型	1		2		3		4		5		6		7		8	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
障害優位	21.7	17.8	5.6	3.7	18.7	13.8	6.6	4.6	9.6	14.1	5.0	3.5	5.3	5.4	2.2	2.2
自己防禦	25.9	35.7	66.0	51.3	17.5	28.0	24.7	17.5	17.4	7.4	33.4	37.9	79.3	76.1	89.9	87.3
要求固執	49.8	41.1	27.5	45.0	62.0	58.2	68.7	76.3	77.5	80.5	61.6	58.3	13.3	15.8	7.0	10.5

Fig / 反応型	9		10		11		12		13		14		15		16	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
障害優位	9.0	5.9	24.3	23.4	30.3	20.1	6.6	9.7	5.3	3.3	82.8	86.9	87.0	93.4	7.1	7.2
自己防禦	52.5	51.8	60.4	60.3	63.1	68.1	84.2	78.0	57.1	57.6	9.7	9.4	8.3	1.1	84.4	84.5
要求固執	38.1	40.7	13.8	14.7	5.3	11.3	7.9	9.3	37.2	38.6	7.1	3.7	4.3	5.5	8.5	8.3

Fig / 反応型	17		18		19		20		21		22		23		24	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
障害優位	43.1	31.5	27.5	28.5	13.5	15.6	21.3	22.2	3.0	4.9	27.4	21.5	65.6	58.6	36.4	38.5
自己防禦	24.8	23.8	38.9	28.6	79.2	76.4	54.6	61.9	37.9	35.7	65.4	65.6	12.3	19.3	28.1	34.6
要求固執	32.1	43.7	33.6	42.9	6.3	8.0	23.6	15.9	59.1	58.4	7.2	9.9	21.8	21.0	35.5	26.9

(1) 比較的バランスのとれた反応型を示したもの……Figl, Fig10, Fig17, Fig18, Fig20, Fig24。

(2) 障害優位型に著しく偏したもの……Fig14, Fig15, Fig23

(3) 自己防禦型に著しく偏したもの……Fig2, Fig7, Fig8, Eig12, Fig16, Fig19。

(3) 要求固執型に著しく偏したもの……Fig3 Fig4, Fig5, Fig6, Fig21。

(4) 性別による図版別の差異はみられない。

表5　「攻撃の方向」による分類表　(%)

方向 / Fig	1		2		3		4		5		6		7		8	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
外　罰	64.1	56.2	88.7	91.5	70.0	67.7	70.1	69.2	71.5	69.5	73.8	78.7	27.4	27.2	36.4	29.5
内　罰	10.2	18.4	5.0	5.4	10.8	22.2	24.6	24.9	11.6	14.1	21.6	16.4	68.7	66.8	61.4	68.4
無　罰	23.1	20.0	5.4	3.1	17.4	10.1	5.3	4.3	16.4	18.4	4.6	4.6	1.8	3.3	1.3	2.2

方向 / Fig	9		10		11		12		13		14		15		16	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
外　罰	68.6	75.9	52.1	56.5	49.6	45.1	75.1	70.3	63.8	67.1	15.5	10.9	47.8	48.1	91.6	85.0
内　罰	8.2	11.2	21.7	15.2	47.0	48.0	17.0	17.6	26.0	24.1	3.1	2.2	0.8	2.7	4.9	11.0
無　罰	22.8	12.3	24.7	26.7	2.1	6.4	6.6	9.1	9.8	8.3	81.0	86.9	51.0	49.2	3.5	4.0

方向 / Fig	17		18		19		20		21		22		23		24	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
外　罰	77.9	85.4	76.9	68.7	46.8	39.1	55.5	46.0	90.1	64.6	13.1	10.5	31.1	29.8	85.7	83.1
内　罰	1.7	1.0	0.9	4.4	46.4	51.5	6.1	6.3	3.2	1.0	69.5	75.7	6.3	10.5	11.6	13.6
無　罰	20.4	12.6	22.2	26.9	5.8	9.8	37.9	47.7	6.7	4.4	17.4	13.8	62.2	58.6	2.7	3.3

(1) 比較的バランスのとれた「攻撃の方向」を示したもの……Fig10。

(2) 外罰反応に著しく偏したもの……Fig1, Fig2 ,Fig3, Fig4, Fig5, Fig6, Fig9, Fig12, Fig13, Fig16, Fig17, Fig18, Fig21, Fig24

(3) 内罰反応に著しく偏したもの……Fig7, Fig8, Fig22

(4) 無罰反応に著しく偏したもの……Fig14

(5) 性別による図版別の差異はみられない。

以上分類基準の二つの面から図版別の特徴を大略とらえてみたが，可成り差異があるように思われる。図版全体を通じてみると，「反応の型」では自己防禦型（46.5%），要求固執型（30.2%），障害優位型（23.3%）の順位で分布している。従つて各図版毎の著しい差異にもかかわらず，各図版が相補的に各反応型を或る程度のバランスをもつて示すようになつているとみなされるであろう。又，「攻撃の方向」についてみれば，外罰的（59.6%），内罰的（21.5%），無罰的（18.9%）の順位で分布しているが，「反応の型」に比較して可成り大きい外向的反応えの偏りがみられる。特徴的な図版を内容的にみると障害優位型は同情的な質問的ものに表われ，自己防禦型は非難，軽べつを受けた場合，又要求固執型は遊びの妨害によつて表われているようである。これら，図版別の特徴の問題は更に検斗してみたいと考えている。特に登場人物との関係は全く未知のことがらである。

2. 年令的にみた特徴について

先には図版別に表われた特徴についてみたが，その場合，年令的な考慮は加えないで，7～14才を一括して取扱つた。ここでは年令的な差異によつて反応に如何なる変化をきたすかを取扱つてみたい。この場合，図版毎の年令の変化はしばらくおくことにして，全図版を通して眺めてみたい。

Rosenzweig は4～13才の256人の結果から，年令的特徴を見出し，Group Comformity Raiting を作成し，個人の成績の位置づけを便ならしめるようにしている。彼の基準との比較は後で述べることとする。

表6　年令別反応分類表（各欄の下段数字は%を示す）

分類＼年令	7		8		9		10		11		12		13		14	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
E'	51 9.9	40 6.3	67 10.2	51 9.2	35 6.6	18 4.2	53 7.5	32 5.2	46 5.5	37 7.9	44 6.3	23 5.1	38 3.6	27 3.4	7 1.7	35 6.4
I'	21 4.1	24 3.8	11 1.7	6 1.1	17 3.2	8 0.1	22 3.1	13 2.2	10 1.1	3 0.6	13 1.8	8 1.7	14 1.3	10 1.4	10 2.4	6 0.1
M'	95 18.5	93 14.6	103 15.7	85 15.5	62 11.6	58 13.8	97 13.5	92 14.9	115 14.1	71 15.0	108 15.5	65 14.6	162 15.5	111 15.6	55 13.5	64 11.8
E, E	150 29.2	208 32.7	207 32.6	170 30.9	185 35.6	133 31.7	188 26.9	164 27.6	262 31.3	131 28.7	196 28.2	107 24.5	300 28.7	191 26.9	119 29.2	117 21.7
I, I	50 9.7	52 8.2	57 8.7	51 9.2	51 9.2	53 12.6	100 14.3	86 13.9	131 16.1	74 15.7	104 15.0	78 17.5	172 16.4	146 20.5	76 18.6	120 22.6
M	23 4.5	10 1.6	12 1.8	15 2.8	12 2.3	14 3.3	19 2.7	9 0.1	12 1.4	10 2.1	24 3.4	13 2.9	37 3.5	30 4.3	9 2.2	24 4.4
e	91 17.7	150 23.6	153 23.4	128 23.3	130 24.3	87 26.7	183 26.5	200 32.4	178 22.0	119 25.2	162 23.3	124 27.8	259 24.9	160 22.4	108 26.4	125 23.0
i	25 4.9	46 7.2	35 5.3	25 4.6	32 6.0	35 8.3	26 3.7	14 2.2	42 5.1	20 4.2	28 4.3	19 4.2	46 4.4	28 4.0	16 3.9	41 7.6
m	1 0.2	4 0.6	3 0.4	3 0.6	5 1.0	9 0.2	6 0.8	2 0.3	10 1.2	6 0.2	8 1.4	7 1.5	16 1.5	10 1.4	8 1.9	11 2.2
無答	6 1.3	9 1.4	7 0.2	15 2.8	8 0.2	6 0.1	7 1.0	6 1.0	2 2.4	2 0.4	6 0.8	1 0.2	2 0.2	1 0.1	1 0.2	1 0.2
計	513 100	636 100	655 100	549 100	537 100	421 100	701 100	618 100	808 100	473 100	693 100	445 100	1046 100	714 100	409 100	544 100

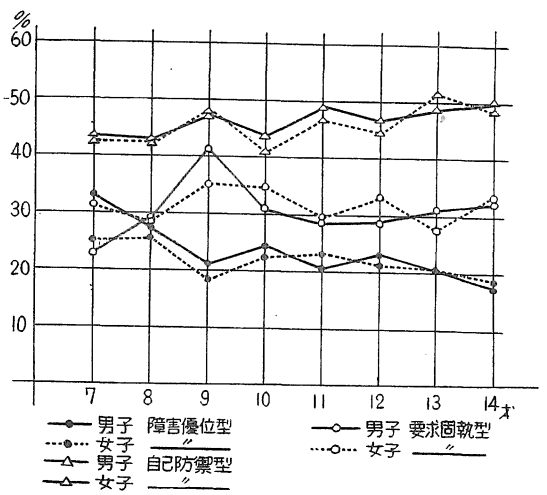
表7　「反応型」からの分類表　(%)

年令 / 反応型	7		8		9		10		11		12		13		14	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
障害優位	32.5	24.7	27.6	25.8	21.4	18.1	24.1	22.3	20.7	23.5	23.6	21.4	20.4	20.4	17.6	18.3
自己防禦	43.4	42.5	43.1	42.9	47.1	47.6	43.9	41.6	48.8	46.5	46.6	44.9	48.6	51.7	50.0	48.7
要求固執	22.8	31.4	29.1	28.5	41.3	35.2	31.0	34.9	28.3	29.6	29.0	33.5	30.8	27.8	32.2	32.8

表8　「攻撃の方向」からの分類表　(%)

年令 / 方向	7		8		9		10		11		12		13		14	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
外罰	56.8	62.6	66.2	63.4	66.5	62.6	60.9	65.2	58.8	61.8	57.8	57.4	57.2	52.7	57.3	51.1
内罰	18.7	19.2	15.7	14.9	18.4	21.0	21.1	18.3	22.3	20.5	21.1	23.4	22.1	25.9	24.9	30.3
無罰	23.6	16.8	17.9	18.9	14.9	17.3	17.0	15.3	16.7	17.3	20.3	19.0	20.5	21.3	17.6	18.4

図1　「反応型」の年令による変化



先にみた図版全体における「反応型」,「攻撃の方向」の分析状態は年令別にみても殆んど変化をきたしていない。即ち「反応型」では自己防禦が各年令を通じて約半数の割合を占め，次いで要求固執型，障害優位型の順となつている。又「攻撃の方向」でも外罰的反応が過半数の割合を占め，次いではるか少ない割合をもつて内罰的反応，無罰的反応の順となつている。次にそれらの関係が，年令的にみて，性別でみて如何なる変化を示すかをみていこう。

「反応の型」からみた変化

(1) 7才の障害優位型，要求固執型を除いて，各年令の各型における性別による差異は殆んど認められない。

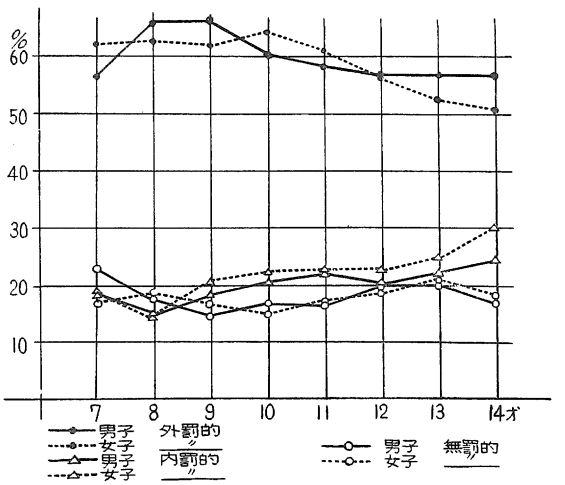
(2) 自己防禦型が各年令を通じて最大の割合を占めているが，年令の増加によつても，若干増加するように思われる。

(3) 要求固執型が自己防禦型に次いだ割合を占めているが，年令の増加に伴つて変化しないように思われる。

(4) 障害優位型が各年令を通じて最小の割合を占めているが，年令の増加に伴つて減小するように思われる。

(5) 年令の増加に伴う変化を概括的にいえば，要求固執はその占める割合がほぼ不動で，障害優位型の減小が漸次自己防禦型の増加えと移行するように思われる。

図2　「攻撃の方向」の年令による変化



「攻撃の方向」からみた変化

(1) 各年令の各反応における性別による差異は殆んど認められない。

(2) 外罰的反応が各年令を通じて最大の割合を占めているが，年令の増加に伴つて減少する傾向がみられる。

(3) 内罰的反応が次いだ割合を占めているが年令の増加に伴つて増加するように思われる。

(4) 無罰的反応は最小の割合を占めているが，年令の増加によつて著しい変化はみられないようである。

(5) 概括的にいえば，年令の増加に伴つて，無罰的反応は殆んど不動で，外罰的反応の減小が漸次内罰的反応の増加へと移行するように思われる。

試みに Rosenzweig 自身の年令別の基準と比較してみると，「反応型」では著しい類似を示し，又「攻撃の方向」でも可成類似した結果を示したものといえよう。

以上，この小論での結果についての報告を終つたわけであるが，何れも確定的な結論を出すに至つていない。現段階での大まかなまとめを敢えて発表し大方の御批正をお願いする次第である。

参　考　文　献

1. Rosenzweig,S : Picture-Frustration Study 原版
2. Rosenzweig,S : "An outline of Frustraiton Theory," in J.McV. Hunt(ed), Personality and the behavior Disorders. New York: The Ronald Press Company, 1944.Vol. Ⅰ.ChapterⅡ.
3. Rosenzweig,S. : "The Picture-association method and its applicaton in a study of reactions to frustration." J.Pers, 1945, 14.
4. 外林大作 : 性格の診断, 1950. 牧書店
5. 玉井牧介 :「P・F・T」, 異常心理学講座、「児童のパースナリテイ・テスト」の中、1954. みすず書房